

倶多楽の火山活動解説資料（平成31年4月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①、図3～7）

22日及び24日に実施した現地調査では、地獄谷や大湯沼、日和山等の各火口の状況や地表面温度分布に変化はありませんでした。日和山山頂爆裂火口の噴気温度は2007年以降やや高い状態が続いています。笠山の地中温度は2015年以降上昇しています。

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図2-③）

GNSS連続観測では、2017年7月以降、日和山東-白老を結ぶ基線でわずかに伸びの変化がみられていましたが、2019年以降停滞しています。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次回の火山活動解説資料（令和元年5月分）は令和元年6月10日に発表する予定です。



図1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（4月15日、414m山監視カメラによる）

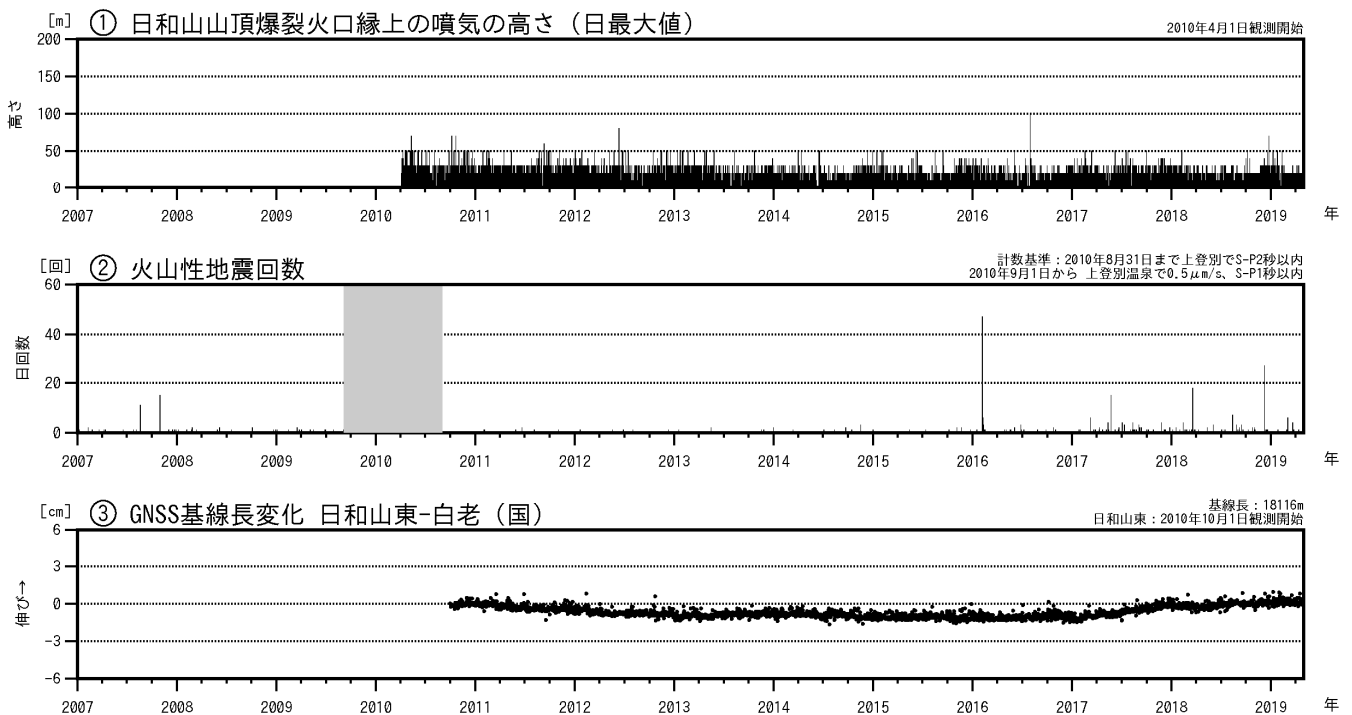


図2 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2019年4月）

- ②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
- ③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
- ③のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」及び「平成30年北海道胆振東部地震」に伴うステップを補正しています。
- ・③のGNSS基線では、2017年以降、わずかな伸びがみられていましたが、2019年以降停滞しています。

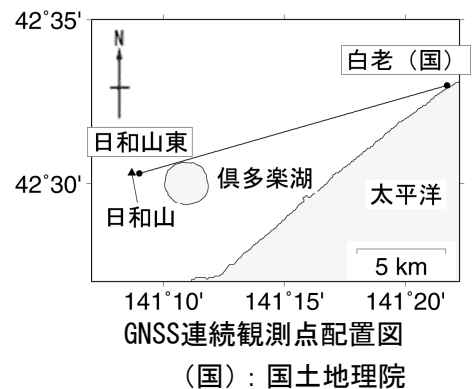




図3 倶多楽周辺図と写真の撮影方向 (矢印)

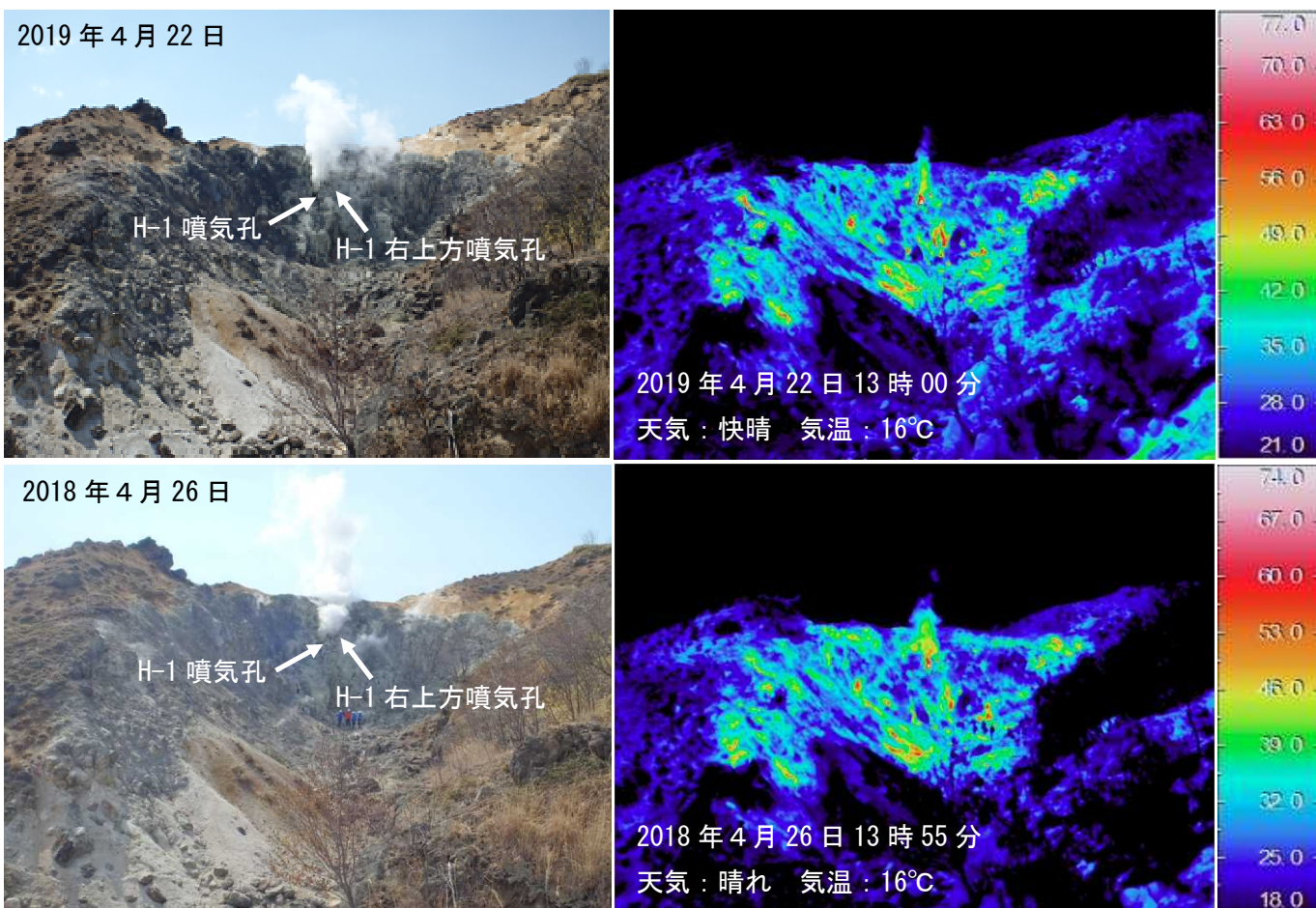


図4 倶多楽 日和山山頂爆裂火口の地表面温度分布 東側 (図3の①: 青矢印) から撮影
・前回 (2018年4月26日) の観測と比べて変化はありませんでした。

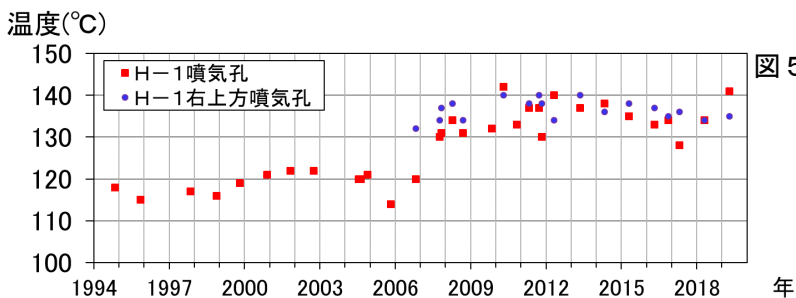


図5 倶多楽 日和山山頂爆裂火口北西側
噴気孔の噴気温度の推移 (1994年~2019年)
・2007年以降やや高い状態が続いています。

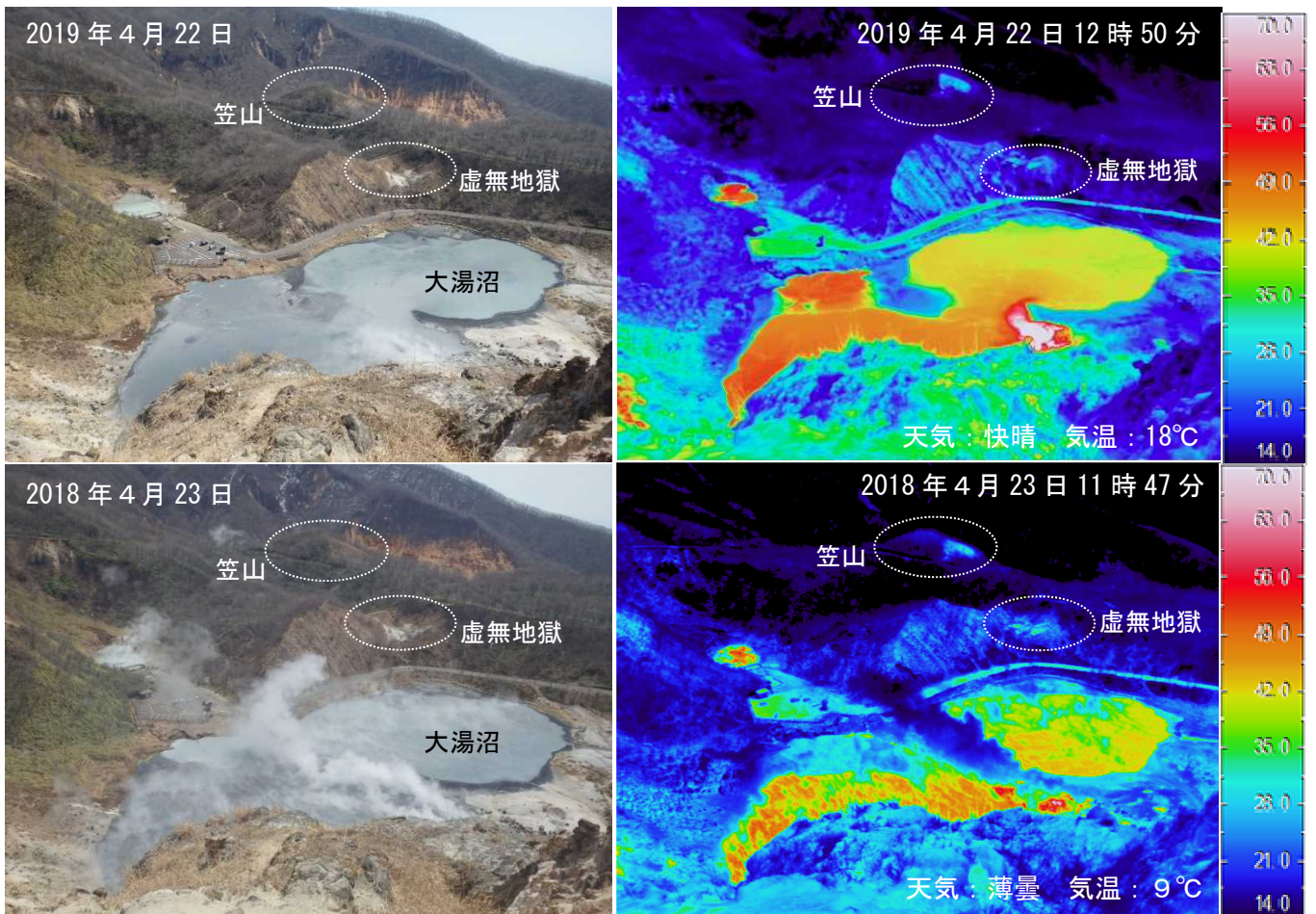


図6 倶多楽 笠山、虚無地獄、大湯沼の地表面温度分布 北西側(図3の①:赤矢印)から撮影
 ・笠山と虚無地獄及び大湯沼の地表面温度分布は前回(2018年4月23日)と比べて変化はありませんでした。
 ・2018年4月23日の大湯沼の温度分布は噴気の影響を受けています。

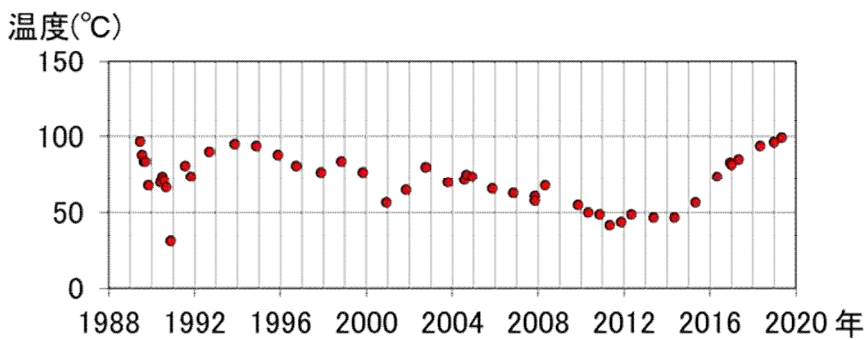


図7 倶多楽 笠山の地中温度推移(測定深度:50cm 1989年~2019年)
 ・笠山の地中温度は、2015年以降上昇しています。

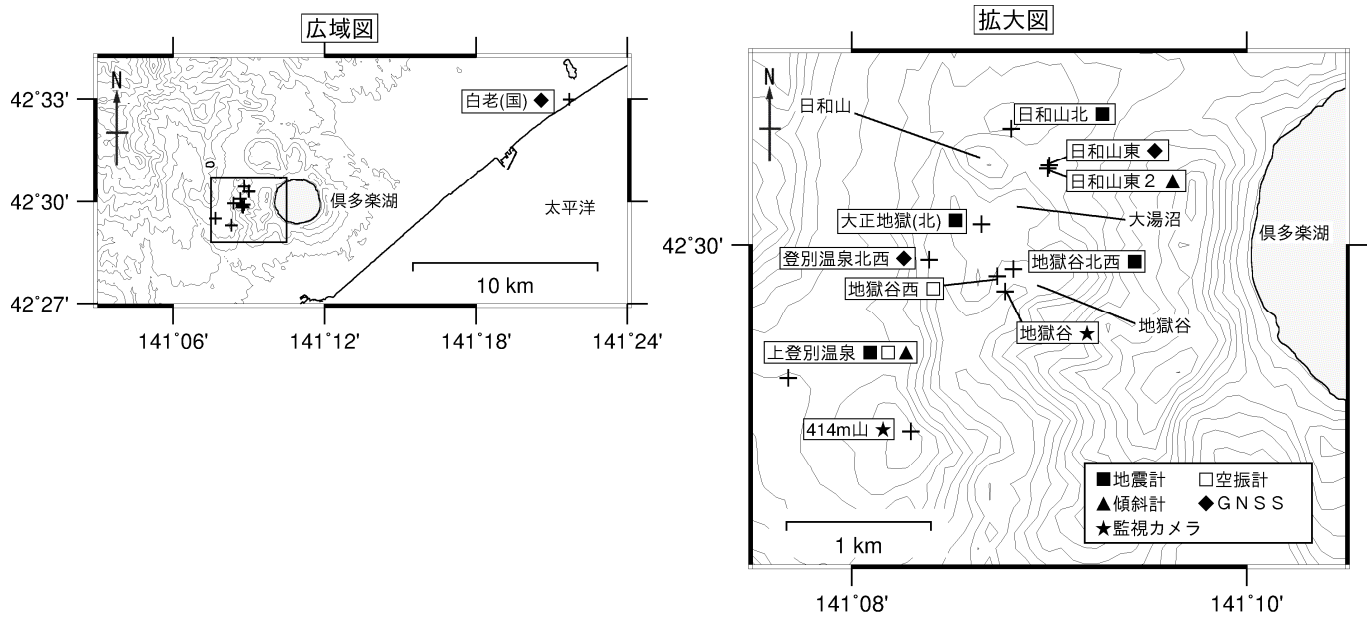


図 8 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学